

活動名 中学生・高校生の能楽塾	団体名	たつじんくらぶ
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 吉原 通庸
	支援金額	35 万円
活動概要		
<p>小学校より能を続けている中高生グループの継続が、伝統芸能の継承、将来を担う国際人育成に繋がるとして、この事業を行なった。今回は前年度よりも4人の新メンバーが加わった。謡と仕舞を稽古し、発表までの段階で、発表会に向けての彼らの役割も話し合う機会を持ち、発表会では、舞台上での「体験コーナー」を彼らが行うことになった。発表会はアステールプラザ能舞台で、「伝統芸能でピース・ひろしま楽！」と題し、前半が能、日本舞踊、長唄三味線の子ども達、大人の稽古成果発表で、後半が講師（長唄、能楽）の芸の鑑賞になる。演者は国際的にも活躍している人などで、その芸を鑑賞できる機会もなかなかないが、子ども達を通して観客となる人たちには伝統芸能に触れる機会となる。（高校生までは無料）そのプログラムの中での「体験コーナー」であり、メンバーは広報役も務めており、目に見えないが、能を軸とする話し合いを通してお互いを認め合い、彼らは成長した。</p> <p>◆実施時期 2015/8/3～2016/2/27</p> <p>◆参加人数 メンバーとなるのは10名、毎回平均7人×13回=91名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：91名</p>		



能の練習風景(講師 大島衣恵氏)



小鼓の体験(講師 横山幸彦氏)



舞台発表(伝統芸能でピース・ひろしま楽!)船弁慶



最後の挨拶

#### ◆実施に伴う効果

今回の事業での子ども達の体験が当団体の大きな活動力となる。これまでは、お稽古と発表のみだったが、話し合いを多く持つことによって子ども達のことよく分かり、今後の活動に活かせる可能性が出てきた。メンバーは話し合っ自分たちの役割を決め、実現に向かうことに興味を持っていることがよくわかる。

今回の「体験コーナー」は大人にとっても新鮮であり、内容は完全ではないが彼らの「体験コーナー」に優しい感想も多く、次回はこうしたらいいのでは？というメモも届いている。子ども達の伝統芸能体験は、東京都の試みよりも3年は早く、能に関して現在いろいろな流派で子ども達を対象にして講座を行っている。喜多流大島家の指導の基に能を会得したが、体験コーナーの内容はすべて彼らに任せた。その意味では、どの分野でもモデルケースになる。伝統の世界への誘いに彼らが取り組んで、広める役割をしたことで、彼らの成長とともに地域への影響も期待できる。

#### ◆苦労した点

- ・受験を控える中学生も参加していて、塾などで忙しく、全員参加が難しいが、最終的な発表会では全員揃った。彼らは話し合い以外にも連絡を取り合っていたことがわかる。
- ・最初はアイスブレイクなどでメンバー同士が親近感を持つことから始まったが、目的に向かう方向でのコミュニケーションを多くすることでメンバーが親しみを持てるように工夫。司会進行、筆記などの交代など。グループ名が決まったことで、メンバーの結束が強くなった。
- ・メンバーに任せるところで、どの程度の口出しが必要かに苦労する。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・「桜華」としてのメンバー意識が強くなり、能が好きという共通点があるので、当団体の目的の1つでもある和 문화継承で彼らの役割を活かせる可能性が大きくなった。また、地域での理解に繋がる可能性も出てきた。
- ・話し合いの中で、海外にホームステイした、これからする、などの声があり、ホームステイをしたときの能の紹介のための英会話の会の実現も行う予定にしている。
- ・学校では伝統音楽、芸能などを実際に体験することは少ないが、当団体では西洋的なことのみが音楽、芸能ではなく、脳活性化においての価値もあるとして活動しているので、幅広い考え方の青少年育成をより発展できた。
- ・受験などで、この活動を中断する子どもも出てきそうところが課題でもある。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

今回の活動が自由にできたことには大変感謝します。

最近伝統文化への興味が増えてきた感じがします。より本物に近いところで活動を続けて行きたいところです。いつの時代も小さいときにやっていたことは、年齢が高くなってもいつか思い出し、何らかの行動に関連するということなので、「桜華」のメンバーも長い目で見ています。